

直売所と生産者等の連携による地域産品を活用した魅力ある農山村の創出

岩屋地域振興協議会（豊前市）

【地域協議会構成団体】 求菩提そば振興組合、岩屋地区飲食加工グループ、道の駅豊前おこしかけ（直売所）、JA豊前ふれあい市場、JA福岡京築、豊前市（事務局）

1. 将来ビジョンの作成

策定年月：平成28年3月

- ・将来ビジョン検討会を開催し、作成。岩屋活性化センターにてビジョンの通年掲示を行っている。



2. 将来ビジョン達成のための取組

I 農林業を守る

- ・そば・葉わさびの生産振興：栽培技術研修会を実施するなど、そばの生産量の拡大に繋がっている。
（そば生産量）H28・583kg→H29・2,007kg→H30・2,115kg
（そば圃場の追加）6.5haから7.9haに増加
葉わさびの栽培面積拡大のため、平成29年度に苗の配布を実施（10戸、60a）。

II 農林業の所得や雇用を増やす

- ・食事メニューの開発：特産品開発講習会を通じ、平成29年度に葉わさび漬を開発・販売。
- ・6次化商品の開発：講習会を実施。そば加工施設を導入し、平成29年度にはそば粉及び実などを使った加工品の試作・販売に取りくんだ。（H29販売金額（12～3月）約22万円）
また、平成30年度にはそばの実を商品化した。平成31年3月18日から7日間、JA豊前ふれあい市場に特設売場を設置し、新商品の発表とパッケージでのレシピの提案による消費拡大に取り組んだ。

III 地域の人口を増やす

- ・農林業体験の提供：そば打ち体験イベントを開催した。
H28は1回・60名、H29は1回・65名、H30は2回・37名
さらに、平成30年度はそばを打てる人を養成するため、そば打ち道場を4回開催した。



【そばを使った新商品】



【そば打ち道場】



【そば打ち体験】



3. 今後の展望

- ・そば・葉わさびの生産振興のため、普及指導センター等と連携した栽培技術研修会を継続して実施する。
- ・そば・葉わさびの6次化商品の商品数を増やし、農業者の所得向上を図る。
- ・常設のそば打ち体験施設の設置（岩屋活性化センター内）による体験機会を提供し、都市部住民との交流に力を入れる。